

News Release



会 社 名 株式会社ファーマフーズ
代 表 者 名 代表取締役社長 金 武祐
コード番号 2929
上場取引場所 東証マザーズ
本社所在地 京都市西京区御陵大原1番地49
075-394-8600 FAX075-394-0099

鶏卵抗体による血液浄化療法分野での研究開発事業の 本格的展開と新会社設立について

当社は、このたび、広島大学大学院生物圏科学研究科の松田治男教授と共同で、鶏卵抗体による血液浄化療法分野での研究開発事業の本格的展開と、検査薬・試薬分野への事業展開を開始するため、当社及び松田教授の共同出資による新会社「株式会社広島バイオメディカル（仮称）」を設立します。

当社は、乳酸発酵によるギャバ（GABA： γ -アミノ酪酸）の大量生産技術と新しい生理機能を開発し、チョコレート、飲料等向けに機能性食品素材を開発・販売しています。また、特異的鶏卵抗体の生産と精製技術により、ピロリ菌抗体ヨーグルト「ドクターPiro（グリコ乳業）」、虫歯菌抗体タブレット「ハキラ（ビーンスターク・スノー）」などの鶏卵抗体の事業化に関する実績・ノウハウをもっています。

広島大学大学院生物圏科学研究科の松田治男教授は、独自技術によりニワトリ抗体のモノクローナル化・ヒト化技術・トランスジェニックチキン（遺伝子組換えニワトリ）等の開発を行っています。松田教授はニワトリモノクローナル抗体作製の先駆者であり、またニワトリ由来のLIF（Leukemia Inhibitory Factor）という因子の遺伝子のクローニングに世界で初めて成功し、未分化のニワトリ胚から取り出した細胞を、LIFを添加した培地中で培養することにより、細胞を分化させることなく遺伝子導入等の実験操作をすることに成功しました。本技術により遺伝子を導入された細胞を再びニワトリ胚にもどすことで、有用物質を鶏卵中に蓄積するトランスジェニックチキンの作製に道をひらきました。

血液浄化療法とは、人工透析と同じ原理で血液中の老廃物や有害物質を除去する治療法ですが、このたび当社では松田教授らと共同で、鶏卵抗体のモノクローナル化・ヒト化技術ならびにトランスジェニックチキン技術を応用した血液浄化療法用の新素材の本格的開発に乗り出しました。これま

で血液浄化療法用の素材としては、目的に応じて様々な物質が利用されていますが、特異性や除去効率、価格の点で問題がありました。モノクローナル化・ヒト化されたニワトリ抗体をトランスジェニックチキンの鶏卵で大量に生産すれば、廉価でかつ特異性・吸着除去効率の極めて高い新規の血液浄化療法用素材の開発が可能になります。また、基本技術である鶏卵抗体のモノクローナル化を用いて、検査薬・試薬分野への進出も図ります。

当社は鶏卵抗体やギャバなどの機能性食品素材の開発・販売を主力業務として営業展開を行っておりますが、今後、検査薬・医療食・メディカルデバイス製品などの分野に進出することにより、業務の拡大と収益の向上を目指しています。本事業の展開にあたり、当社は松田教授と共同で株式会社広島バイオメディカルを設立することになりました。

株式会社広島バイオメディカルは当初5～6名の研究員により、検査薬・試薬・診断薬分野の事業展開をするとともに、ターゲットした血液抗原のモノクローナル抗体の作製とその血液浄化療法に向けた試験研究を実施し早期の事業化を目指します。同社の会長には松田教授が就任する予定です。

松田治男教授の略歴

昭和50年：大阪府立大学大学院博士課程修了（農学博士）

昭和51年11月～昭和56年3月：大阪大学微生物病研究所、徳島大学医学部、岡山大学医学部等で助手

昭和56年4月：広島大学生物生産学部助教授

平成6年1月：広島大学教授

現在、広島大学大学院生物圏科学研究科免疫生物学教授

広島バイオメディカルの概要（予定）

設立 平成19年4月

資本金 1,000万円

本社 広島県東広島市

主な事業内容 検査薬、試薬、医薬品および医療機器用素材の開発・販売

ニワトリ抗体のヒト化技術

ニワトリ由来の抗体はヒトにとっては異物であるので、血中に投与するとニワトリ抗体に対する抗体が産生されてしまうため、そのままでは血液浄化療法用素材としては使用できない。そこで遺伝子工学技術を用い、異物であるニワトリ抗体に由来するアミノ酸配列をヒト由来のアミノ酸配列に置換する技術。